

才23回 宇宙開発委員会(定例会議)

議 事 次 才

1. 日時 昭和53年12月20日(水)
午後2時 ~ 4時

2. 場所 宇宙開発委員会会議室

3. 議題 ・ 才二部会の宿議について(中間報告)

4. 資料

委23-1 才22回宇宙開発委員会(定例会議)議事要旨(案)

委23-2 宇宙開発委員会才二部会中間報告書

第 22 回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 要 旨

1. 日 時 昭和 53 年 / 2 月 / 3 日（水）
午後 2 時～4 時
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 (1) 委員長就任挨拶及び委員長代理の指名について
(2) 昭和 53 年度 1～2 月期人工衛星打上げ計画について
4. 資 料
委 22-1 第 21 回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）
委 22-2 SES ノート K-16563 科学衛星及び観測ロケット実験計画概要（昭和 53 年度 2 次）
SES ノート K-16568 M-30-4 号機の実験
委 22-3 実験用静止通信衛星（ECS）打上げ及び追跡管制計画書（昭和 54 年 1・2 月期）
委 22-4 実験用静止通信衛星（ECS）実験基本計画書

参考配布

- SES ノート K-16564 K-9M-65 による観測
- " K-16565 S-310-6 "
- " K-16566 K-9M-66 "
- " K-16567 S-310-5 "
- 昭和 53 年度 1・2 月期ロケット打上げ計画一覧

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長

金 子 岩 三

" 委員

網 島 毅

" "

吉 識 雅 夫

" "

八 藤 東 祐

" "

斎 藤 成 文

説明者

東京大学宇宙航空研究所教授

東 口 実

"

田 中 靖 郎

宇宙開発事業団副理事長

鈴 木 春 夫

" 打上管制部長

村 尾 忠 義

郵政省電波研究所衛星研究部長

石 田 亨

" 電波監理局宇宙通信開発課長

三 浦 信

関係省庁職員等

科学技術庁事務次官

〃 研究調整局長

文部省学術国際局審議官

通商産業省機械情報産業局次長

〃 工業技術院総務部長

運輸省大臣官房参事官

〃 気象庁総務部長

郵政省電波監理局審議官

建設大臣官房技術参事官

東京大学宇宙航空研究所

郵政省電波監理局

〃 電波研究所

〃 〃

宇宙開発事業団

〃

〃

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

〃 〃 宇宙開発課長

伊 原 義 徳

園 山 重 道

手 塚 晃
(代理：池之上)

杉 山 和 男
(代理：吉田)

服 部 典 徳
(代理：高橋)

西 村 康 雄
(代理：岡本)

相 良 英 明
(代理：山中)

浜 田 望
(代理：飯田)

高 秀 秀 信
(代理：土肥)

秋 元 春 雄

小 林 輝 治

塚 本 賢 一

吉 村 和 幸

船 川 謙 司

田 畑 淨 治

飯 塚 裕 久

堀 内 昭 雄

鈴 木 晃
他

6. 議事要旨

(1) 委員長就任挨拶及び委員長代理の指名について

金子岩三新委員長から就任の挨拶が行われたのち、網島毅委員が引き続き委員長代理に指名された。

(2) 前回議事要旨

第2 / 回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨が確認された。

(3) 昭和53年度1～2月期人工衛星打ち上げ計画について

① 東京大学関係

東京大学宇宙航空研究所の東口実教授及び田中靖郎教授から資料委22-2に基づいて説明が行われ、以下の質疑応答が行われたのち、計画が了承された。

網島： 前回のC O R S Aのミッションとの相異は何か。

田中： 宇宙重粒子線の観測を止め、一方X線観測にすだれコリメータを付加し、機能を向上させている。

② 宇宙開発事業団

宇宙開発事業団の鈴木春夫副理事長及び村尾忠義打上管制部長から資料委22-3に基づいて説明が行われ、以下の質疑応答が行われたのち、計画が了承された。

斎藤： ロケットの2段と3段の切断は従来のものと異なる

ということだがどう変わったのか。

村尾： 従来はボルト爆発方式だったが、今回はボルトカッターシステムに改めた。C Sを打ち上げたデルタ137号機からNASAで新しく採用されたもので、従来のものより信頼性が高いと考えられている。

網島： 従来の方式でも成功しているので、新しい方式を取り入れる理由が不明確ではないか。

吉識： 従来のボルト爆発方式で失敗した例はない。
変更すべき理由があるのか。

村尾： 日本では失敗の例はないが、NASAでは、デルタ130号機の失敗例がある。NASDAでも作動試験を行い、その実績を踏まえて変更した。

鈴木： 米国では、従来方式のものの製作を中止したと聞いている。

また、新方式の採用に当たっては作動試験を十分に行った。

網島： ETS-IIのソフトウェアを今回もそのまま使っているのか。

鈴木： 基本的には同じものであるが、衛星が変わったことによる変更は若干ある。変更の大部分はNASDAが

行った。

このうち、郵政省電波監理局の三浦信宇宙通信開発課長及び電波研究所の石田亨衛星研究部長から資料委22-4に基づいて、ECSの実験基本計画の説明が行われ、以下の質疑応答が行われた。

網島： CSとの干渉実験はCバンドを使用して行うのか。

石田： その通りである。CSのCバンドのうち高い方の周波数は、ECSの周波数と一致するので干渉実験を行うことができる。

網島： 地上側の干渉実験はやらないのか。

石田： 地上局間干渉と衛星間干渉の両方の実験を行う計画である。

網島： サイトダイバーシテイはオートマチックで行うのか。
また、そのために必要な装置はできているのか。

石田： 御指摘のとおりオートマチックで行う。また、サイトダイバーシテイはKDDにその装置があり、技術的にも確立している。

網島： ミリ波の通信実験は他の国でも行っているのか。

石田： 日本が最初である。

吉識： 地上局のハードウェアは国産か。

石田： その通りである。

斎藤： トランスポンダはどうか。

郵政省： すべて国産である。